6月5日号
第2630号
2003年(平成15年)
(昭和24年5月10日　第3種郵便物認可)

海上保安新聞

発行所　財団法人　海上保安協会
〒104-0045　東京都中央区築地5－3－1
電話　03－3542－3078～9
FAX　03－3541－9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
(毎週木曜日発行)
購読料　月額610円　送料共

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043　東京都中央区湊1－14－14
TEL　03-3553-3161～4
FAX　03-3551-4898

船の科学館

工作船公開に長い列

生々しい弾痕に息のむ

北朝鮮工作船が東京湾に出現――。鹿児島県奄美大島沖の東シナ海で平成13年12月22日に起きた北朝鮮工作船事件で沈没、引き揚げられた工作船の一般無料公開が5月31日から東京・お台場の「船の科学館」(品川区東八潮)で始まった。関係上保安協会が日本財団、海上保安庁、船の科学館の協力を受けて展示した。工作船のほか、いた上陸用の小型ボート、対空機関銃や対戦車ケットランチャーの発射装置など武器類も見学できる。海上保安庁は新たに巡視船と工作船の銃撃戦のビデオを作成して会場で上映。工作船を保存する資金箱を設置されている。工作船は鹿児島市の鹿児島ドック鉄工関で2日間一般公開されたあと、東京に運ばれた。公開は9月30日まで。

屋外に展示された工作船を見る人たち

「船の科学館」本館前の第1会場に工作船と撤去された工作用ボートが並べられていた。14人が乗っていたそうだが、現物を見て偽装工作していたことが分かった。

北朝鮮の動向に関心を持ち「ぜひ見たかった」という感想をもらしていた。

6月1日の開場時から約2時間待ちの長い列ができた。工作船は引き揚げられての西荒島市内で二百数十日間保存されていたが、保存状態は良い。

見学者たちは船尾の機音扉から内部をのぞき、工作船は荷度も船体を塗り替えていたそうだ。工作船は荷度も船体を塗り替えられ